



システム・ダイナミクス研究部会

1. 研究部会発足について

システム・ダイナミクス（以下SDと略称）研究部会は1973年9月に発足したが、その動機はつぎのとおりである。

インダストリアル・ダイナミクスがForresterにより創始されてよりすでに十余年を経過し、その間、アーバン・ダイナミクス、ワールド・ダイナミクスと進展、システム・ダイナミクスとして統一されたが、ローマ・クラブの委嘱によるメドウズらによる「成長の限界」を契機として世界的に広まった。わが国においても各方面で適用が試みられ、とくに最近の経済情勢の激変に対して使用例増加のきざしがある。しかしながら、適用数に比して公表数は少なく、ことに企業との関係する場合、モデルの細部は説明が省略される場合が多い。SDは著しい特色を持ちながらも、なお方法として一般に首肯されるに至っておらず、モデル構成の際種々の問題点に遭遇するはずであるが、そのような問題がどのように処理されているかは発表されるケースが少ない。個々のcase studyに対する問題点を持ちより検討することにより、SDそのものの方法としての特徴を明らかにするとともに、SDによるモデル構成に対する疑問点を解明していくことが必要であると考えられる。

これがSD研究部会発足の動機である。

2. 研究の方針

第1回の研究会において、研究の目的をどのように定めるかが討議されたが、議論は二つに分かれた。一つは、SDの方法そのものの検討であり、他は部会として独自のcase studyを行なうべきであるというものであった。部会としてcase studyを行ない、信頼するに足るモデルを構成、そのcase studyを通じてSDの方法自体を検討するとともにoutput analysisを行ない、それらを詳細に報告すれば、それは十分意義深いことであると、この案の賛成者もかなりの数にのぼった。しかし、それにはかなりの準備期間が必要であるし、case studyを行なう場合も、case studyそのものが目的ではなく、case study

を通じてSD全般を研究することに目標をおくべきであるというので、研究の方針はつぎのとおりになった。

SDの方法を研究、その適用範囲を明確にし、問題点を整理してその解明を志すとともに、validation, output analysisの方法を検討する。

そのために、暫くの間、会員によって行なわれたcase studyを順次検討していくことを主とするが、部会によるcase studyの準備ができしだい、一部の会員によるcase study班を構成、研究を進める。

3. 研究会の運営

現在会員数30名、正メンバーはつぎのとおりである。阿保栄司(早大)、稲田久二男(日本コンサルタント・グループ)、内海武士(三菱総研)、大沢光(たばこ総研)、小沢善雄(科学技術と経済の会)、甲斐左千夫・吉越昌治(センチュリー・リサーチ・センター)、亀山三郎(中大)、木村耕(電気通信大)、栗原宏文(東亜燃料工業)、児玉文雄(埼玉大)、小玉陽一(日本SD研)、斉藤雄志(電力中研)、佐々木良一(日立システム研)、島田俊郎(明大)、清水明(千葉工大)、辻谷将明(鹿島建設)、富田潔(味の素)、榛沢芳雄(日大)、馬場宏造(日本システム)、福島憲治(日本歯科医師会)、松崎功保(IBMサイエンティフィック・センター)、山内昭(東洋大)。

毎月1回、原則として第3木曜の夜、明治大学(千代田区神田駿河台)で例会を開いているが、毎回20名前後が参加している。今年1月までに討論されたcase studyにつぎのとおりである。

1. 大学モデル 島田 俊郎(明大)
2. 兵庫ダイナミクス(兵庫県モデル)
宮島 秀紀(兵庫県企画部)
松崎 功保(IBM)
3. 大都市交通モデル
馬場 宏造(日本システム)
4. 流通に関するシステム・シミュレーション
阿保 栄司(早大)

幹事はつぎの諸君である。木村 耕、亀山三郎、栗原宏文。研究メンバーの新規加入も歓迎するので、筆者(Tel. 03-296-4422 内線374)、または亀山三郎(Tel. 03-292-3111 内線539)まで申し込

んでください。なお、地方からの場合は、下記にご連絡ください。

東京都千代田区神田駿河台

明治大学 11号館研究室

システム・ダイナミクス研究部会

(主査 島田俊郎)



関西支部

1. 昭和48年度活動状況

本支部では、前期よりひき続き支部事業としてOR研究講演会を開くこととなった。本年度は、担当者として6人の方々に依頼している。現在までのところ、つぎの研究講演会が開かれた。

- (1) 「PPBSにおける行政需要の把握について」
河崎 俊二氏(神戸商大)
「神戸市における行政OR」
高寄 三郎氏(神戸市役所)
主査 伊賀 隆氏(神戸大)
- (2) 「Portfolio Selection」
国沢 清典氏(東京工大)
主査 坂口 実氏(阪大)
- (3) 「需要予測についての一考察」
森 健一氏(大阪府大)
「情報論的考察による需要予測」
太田 宏氏(大阪府大)
主査 加瀬 滋男氏(大阪府大)
- (4) 「多変量解析の最近の話題」
丘本 正氏(阪大)
主査 坂口 実氏(阪大)
- (5) 「多変量データ解析結果の図的表示について」
後藤 昌司氏(シオノギ製薬)
松原 義弘氏(")
「変動期におけるマーケティングの考え方や意志決定」
岡沢 宏氏(住友化学)
主査 朝尾 正氏(田辺製薬)
後藤 昌司氏(シオノギ製薬)

2. 支部総会

本年度の支部総会を昭和48年5月15日(火)14:00～17:00に関西情報センター会議室で開催した。当日の議題はつぎのようなものであった。

- 1) 昭和47年度事業報告、決算案承認の件

- 2) 昭和48年度事業計画、予算案承認の件
- 3) 役員の変更
- 4) その他

なお、同時につぎの特別講演を聞いた。

「プランニング・システムについて」

大野 豊氏(京都大)

「組合わせ計画法をめぐって」

茨木 俊秀氏(京都大)

3. 支部長、副支部長の改選

前支部長、副支部長の任期が満了になったので、改選の結果、支部長として朝尾 正氏(田辺製薬)、副支部長として三根 久氏(京都大)が選出された。

4. 支部役員の変更

昭和46年度よりの10名は任期がきたので、おもにこれらの方々について検討された。その結果、昭和47年度よりの委員はそのまま継続していただくほか、朝尾 正氏(田辺製薬)、三根 久氏(京都大)、加瀬滋男氏(大阪府大)、南 俊次氏(阪神高速公団)に新たに委員として残留していただくことに決定した。監事として新たに花岡信平氏(住友銀行)に就任していただくことになった。

中国四国支部

48年の支部活動は支部規約改訂の検討から始まった。法人化による本部規約改訂にともない、支部規約整備の要求に応じるため、支部幹事が2月、3月に数回にわたって集まり、支部規約の充実をはかった。その結果、満足すべき規約案がまとまったのはいうまでもないが、幹事の活動が調子づき、48年の支部活動が活発化したもをつくったといえる。

さて、以下48年度の行事概要を紹介しよう。

○48. 4. 18 支部総会

従来、総会は型どおりに議事をすすめるにすぎなかったが、今年は支部運営について活発な意見が出された。曰く、47年の行事はコンピュータ関係が多すぎる。コンピュータの話題ばかりやっていてよい